

施策の評価

施策の柱	柱⑥	体力づくり ～体力・運動能力の向上～
------	----	--------------------

1. 施策の主要目標の達成度

施策の主要目標	目標達成度	判断理由																																																		
<p>① 児童生徒の体力向上に向けた体育授業の改善・充実を目指す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 目標達成のための主な手段 事業 36, 38, 40 </div>	C	<p>◆高知県小・中学校における保健体育の授業改善に取り組む学校の割合 高知県体力・運動能力、運動習慣等調査結果より</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>体育の授業改善(小学校)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>保健体育の授業改善(中学校)</p> </div> </div> <p>中学校では、体力向上に向けて授業改善に取り組んでいる学校が、平成 22 年度と比較して、7.9 ポイント減少している（授業以外で取り組んでいる割合は 5.1 ポイント増加）。 小学校では、授業改善に取り組んでいる学校が全国平均*より 6.0 ポイント上回っている。</p> <p>*平成 23 年度は全国調査が実施されなかったため、平成 22 年度の値を利用</p>																																																		
<p>② 体力向上につながる児童生徒の運動習慣の確立を目指す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 目標達成のための主な手段 事業 36, 37, 39, 40 </div>	C	<p>◆児童生徒の運動やスポーツの実施状況 高知県体力・運動能力、運動習慣等調査結果より</p> <p><小学校></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>ほとんど毎日</th> <th>ときどき</th> <th>ときたま</th> <th>しない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H23女子</td> <td>30.6</td> <td>40.4</td> <td>15.2</td> <td>13.8</td> </tr> <tr> <td>H22女子</td> <td>32.7</td> <td>40.1</td> <td>13.9</td> <td>13.4</td> </tr> <tr> <td>H23男子</td> <td>53.4</td> <td>29.2</td> <td>8.9</td> <td>8.5</td> </tr> <tr> <td>H22男子</td> <td>58.2</td> <td>25.5</td> <td>8.1</td> <td>8.3</td> </tr> </tbody> </table> <p><中学校></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>ほとんど毎日</th> <th>ときどき</th> <th>ときたま</th> <th>しない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H23女子</td> <td>55.3</td> <td>8.2</td> <td>10.8</td> <td>25.7</td> </tr> <tr> <td>H22女子</td> <td>53.5</td> <td>8.1</td> <td>11.7</td> <td>26.7</td> </tr> <tr> <td>H23男子</td> <td>79.9</td> <td>5.9</td> <td>3.4</td> <td>10.8</td> </tr> <tr> <td>H22男子</td> <td>78.8</td> <td>5.7</td> <td>4.9</td> <td>10.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>小学校では、運動実施頻度が前年度を下回っている。反面、中学校においては、運動頻度が前年度を上回っており、小中学校で反対の結果が出ている。</p>		ほとんど毎日	ときどき	ときたま	しない	H23女子	30.6	40.4	15.2	13.8	H22女子	32.7	40.1	13.9	13.4	H23男子	53.4	29.2	8.9	8.5	H22男子	58.2	25.5	8.1	8.3		ほとんど毎日	ときどき	ときたま	しない	H23女子	55.3	8.2	10.8	25.7	H22女子	53.5	8.1	11.7	26.7	H23男子	79.9	5.9	3.4	10.8	H22男子	78.8	5.7	4.9	10.7
	ほとんど毎日	ときどき	ときたま	しない																																																
H23女子	30.6	40.4	15.2	13.8																																																
H22女子	32.7	40.1	13.9	13.4																																																
H23男子	53.4	29.2	8.9	8.5																																																
H22男子	58.2	25.5	8.1	8.3																																																
	ほとんど毎日	ときどき	ときたま	しない																																																
H23女子	55.3	8.2	10.8	25.7																																																
H22女子	53.5	8.1	11.7	26.7																																																
H23男子	79.9	5.9	3.4	10.8																																																
H22男子	78.8	5.7	4.9	10.7																																																

2. 施策を構成する個別事業・取組の評価結果

個別事業・取組	目標達成度	検討項目	総合評価
36 子どもの体力向上支援事業	B	オ	体力向上に向けたプランを策定することで、今後 4 年間の取組の方向性を具体的に示すことができた。また、フォーラムの開催を通して、当プランが多くのマスメディアに取り上げられたことで、体力向上の取組について、広く県民への周知を図ることができた。各学校が作成する学校改善プランと結びつけることで、さらに効果的な活用が期待できる。
37 トップアスリート夢先生派遣事業	C	エ	指標としたアンケート項目については目標数値を達成することはできなかったが、トップアスリートとのふれあいを通して、多くの児童が前向きな気持ちを高めている。 また、夢を持つことの大切さ等を伝える夢先生の講話もあり、児童の夢や志を喚起するうえでも有効な事業であるといえる。
38 地域スポーツ人材の活用実践支援事業	B	オ	児童生徒が、専門的指導を受けることで「できない」ことが「できる」ようになることは、運動に対する意欲を高めることにもつながっている。また、運動部活動においては、マナーの習得や協力することの大切さを学ぶことができたとの感想も多く、単に技術の向上だけではなくさまざまな面において、本事業の効果を確認することができた。
39 幼児期の身体活動推進事業	B		体力向上に向けては、幼保・小・中と、それぞれの発達段階に応じた取組が必要となる。特に、就学前の幼児については、遊びの中で色々な動きを体験し、洗練させることが重要である。幼児に意図的な動きを伴った遊びを日常的に経験させるためには、幼稚園・保育所の指導者にその知識を学んでもらう必要があり、本事業の必要性は高いと考える。
40 体力・運動能力、運動習慣等調査事業	C	エ・オ	体力向上の取組を効果的・効率的に行っていくためには、それぞれの学校における課題を明確にすることが必要となる。本事業では、調査実施後、3 週間程度で詳細なデータが各学校に返却されるが、早い時期から取組を見直し、その後の取組に生かすことができる環境を整えるうえで、県全体の調査結果や課題分析等をまとめた調査報告書についても、できるだけ速やかに作成・配付を行う必要がある。 体力調査の実施率は、小学 5 年・中学については 100% であるが、小学 4・6 年は低い。各学校における体力向上の PDCA サイクルを確立するためにも、実施率の向上が必要となる。

3. 施策の総合評価と今後の方向

総合評価	C	体力・運動能力については、平成 21 年度から緩やかながら向上傾向を示しており、「こうちの子ども体力アップアクションプラン」の推進によって、体力に対する意識の向上が図られてきている。しかしながら、運動習慣を含む望ましい生活習慣の定着については、改善傾向が見られない状況である。また、授業改善への意識も伸び悩んでいる。運動習慣の定着を図るためには、継続した取組を地道に行うことが大切であり、今後は新たなプランを中心に取組を推進していく。
今後の方向		児童生徒の運動習慣の定着を図り、体力・運動能力の向上に向けて、平成 24 年度から「新・こうちの子ども体力アップアクションプラン」を基に取組を推進していく。特に、各学校が策定する学校改善プランと体力アップアクションプランを結び付ける取組を通して、学校改善プランの具現化を図るために、学校訪問を計画的に行い、学校の実態に応じた支援・指導を積極的に行っていく。